

# 船橋市障害者計画基礎調査 報告書概要版

平成 25 年 10 月

船 橋 市



# 目 次

<b>1</b>	<b>調査の目的と方法</b> .....	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>アンケート調査結果（全体）</b> .....	<b>3</b>
<b>3</b>	<b>アンケート調査結果（種類別）</b> .....	<b>29</b>
I	身体障害者を対象とした調査結果.....	29
II	知的障害者を対象とした調査結果.....	33
III	精神障害者を対象とした調査結果.....	36
IV	施設入所者を対象とした調査結果.....	37
V	一般市民を対象とした調査結果.....	39



# 1 調査の目的と方法

## (1) 調査の目的

この調査は、「第3次船橋市障害者施策に関する計画」を策定するにあたって、障害のある方の生活実態などを把握し、同計画の策定及び障害者施策の企画・推進のための基礎資料を作成することを目的として実施しました。

## (2) 調査方法

調査票の記入は、原則として本人が行うものとししました。ただし、本人による記入が困難な場合には、家族や介助者が本人の意向を確かめて記入するものとししました。

調査の種類	調査の対象	調査方法
I 身体障害者調査	身体障害者手帳を所持している市民、難病のための特定疾患医療受給者票を所持している市民から抽出（※身体障害者手帳については障害種別毎に抽出）	郵送配布、無記名による郵送回収
II 知的障害者調査	療育手帳を所持している市民から抽出	
III 精神障害者調査	市内の精神科医療機関に通院している市民に、医療機関を通じて配布	施設・医療機関にて配布、無記名による郵送回収
IV 施設入所者調査	市内の障害者入所施設、精神科医療機関に入所・入院している市民に、施設・医療機関を通じて配布	
V 一般市民調査	住民基本台帳から、20歳以上の市民を抽出	郵送配布、無記名による郵送回収

## (3) 調査期間

平成25年8月5日（月）～平成25年8月19日（月）

## (4) 調査主体

船橋市

## (5) 集計・分析

株式会社 社会構想研究所

## (6) 調査票の配布・回収状況

	配布数	回収数	無効票	有効回収数	有効回収率
I 身体障害者調査	1,950	1,392	1	1,391	71.3%
II 知的障害者調査	340	251	0	251	73.8%
III 精神障害者調査	310	98	0	98	31.6%
IV 施設入所者調査	100	47	0	47	47.0%
V 一般市民調査	300	141	0	141	47.0%
合計	3,000	1,929	1	1,928	64.3%

※ I 身体障害者調査の対象者のうち、視覚障害者については、点字版及び拡大文字版の2種類の調査票を送付しました。

## (7) 利用にあたって

- ①調査結果の数値は、原則として回答率(%)で表記しています。
- ②表では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が割合(%)を表示しています。表中に「-」と表示してあるものは、回答者がいなかった場合です。
- ③アンケート調査を集計した数値は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、回答率(%)を全て合計しても、100.0%にならないことがあります。
- ④回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- ⑤アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、図表中では選択肢を要約して表記していることがあります。
- ⑥回答者数が極端に少ないものについては、分析対象から外している場合があります。ただし、その場合でも調査結果には参考値として掲載しています。
- ⑦表中で網掛けをしている部分は、クロス集計の結果の中で特徴のあった部分として、説明文で取り上げている数値を指します。
- ⑧障害者の表記については、18歳未満の児童も含んでおります。

## 2 アンケート調査結果(全体)

### (1) 年齢

あなたは、何歳ですか。平成 25 年 1 月 1 日現在の満年齢でお答えください。

身体障害者調査では、65 歳以上の高齢者が全体の 3 分の 2 (67.0%) を占めており、特に「75 歳以上」は 37.2% となっています。一方、知的障害者調査では、30 歳未満が過半数 (56.3%) に達しており、特に 18 歳未満が 36.0% となっています。精神障害者調査では、40～59 歳が過半数 (52.0%) に達しており、特に「40～49 歳」は 30.6% となっています。

平均年齢を見ると、身体障害者調査は 67.7 歳、知的障害者調査は 28.0 歳、精神障害者調査は 50.1 歳であり、障害の種別によって大きく異なります。

施設入所者調査は、「40～49 歳」が 25.5% で最も多く、平均年齢は 51.8 歳です。

図表 1 年齢

		全体	0 ～ 5 歳	6 ～ 11 歳	12 ～ 14 歳	15 ～ 17 歳	18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳
全体		1,787 100.0	24 1.3	42 2.4	29 1.6	23 1.3	9 0.5	68 3.8	94 5.3
アンケートの 種類	身体障害者	1,391 100.0	7 0.5	11 0.8	5 0.4	5 0.4	4 0.3	18 1.3	29 2.1
	知的障害者	251 100.0	17 6.8	31 12.4	24 9.6	18 7.2	5 2.0	46 18.3	39 15.5
	精神障害者	98 100.0	-	-	-	-	-	2 2.0	19 19.4
	施設入所者	47 100.0	-	-	-	-	-	2 4.3	7 14.9

		40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 歳 以上	無 回 答	平均 年 齢
全体		161 9.0	167 9.3	173 9.7	440 24.6	525 29.4	32 1.8	67.7
アンケートの 種類	身体障害者	71 5.1	126 9.1	155 11.1	414 29.8	517 37.2	29 2.1	67.7
	知的障害者	48 19.1	11 4.4	3 1.2	4 1.6	4 1.6	1 0.4	28.0
	精神障害者	30 30.6	21 21.4	8 8.2	15 15.3	1 1.0	2 2.0	50.1
	施設入所者	12 25.5	9 19.1	7 14.9	7 14.9	3 6.4	-	51.8

## (2) 同居家族

あなたが一緒に暮らしている家族は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、「夫または妻」が58.7%で最も多く、「子」が35.2%、「父母」が10.7%で続いており、「自分ひとり」は14.8%となっています。

知的障害者調査では、「父母」が86.1%で最も多く、「兄弟姉妹」が47.4%で続きます。

精神障害者調査では、「自分ひとり」が55.1%で最も多く、「父母」が25.5%、「友人や仲間などとの共同生活」が10.2%で続きます。

図表 2 同居家族

	全体	夫または妻	父母	子	孫	兄弟姉妹	その他の親族	友人や仲間などとの共同生活	自分ひとり	無回答
全体	1,740 100.0	832 47.8	390 22.4	501 28.8	88 5.1	195 11.2	19 1.1	38 2.2	266 15.3	48 2.8
アンケートの種類										
身体障害者	1,391 100.0	817 58.7	149 10.7	490 35.2	87 6.3	68 4.9	6 0.4	16 1.2	206 14.8	43 3.1
知的障害者	251 100.0	10 4.0	216 86.1	9 3.6	-	119 47.4	13 5.2	12 4.8	6 2.4	2 0.8
精神障害者	98 100.0	5 5.1	25 25.5	2 2.0	1 1.0	8 8.2	-	10 10.2	54 55.1	3 3.1

## (3) 日常生活で困っていること

あなたが日常生活で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査、精神障害者調査は「健康」が最も多く、精神障害者調査では過半数(52.0%)に達しています。知的障害者調査では「外出」が38.2%と最も多くなっています。

「人間関係」という回答は、身体障害者調査では1割未満(5.3%)であるのに対し、知的障害者調査(34.7%)、精神障害者調査(37.8%)では3割台を占めています。

施設入所者調査では、「特に困っていることはない」が全体の3分の1(34.0%)を占めています。

図表 3 日常生活で困っていること

	全体	健康	仕事や学校	住まい	身の回りのこと	お金に関すること	人間関係	外出	その他	特に困っていない	無回答
全体	1,787 100.0	637 35.6	138 7.7	116 6.5	464 26.0	328 18.4	210 11.8	540 30.2	149 8.3	470 26.3	88 4.9
アンケートの種類											
身体障害者	1,391 100.0	507 36.4	65 4.7	80 5.8	335 24.1	230 16.5	74 5.3	419 30.1	116 8.3	387 27.8	69 5.0
知的障害者	251 100.0	66 26.3	49 19.5	17 6.8	93 37.1	63 25.1	87 34.7	96 38.2	27 10.8	48 19.1	17 6.8
精神障害者	98 100.0	51 52.0	22 22.4	11 11.2	29 29.6	28 28.6	37 37.8	16 16.3	4 4.1	19 19.4	1 1.0
施設入所者	47 100.0	13 27.7	2 4.3	8 17.0	7 14.9	7 14.9	12 25.5	9 19.1	2 4.3	16 34.0	1 2.1

#### (4) 日常生活で介助が必要な場面

あなたは、次のような日常生活の場面で、介助を必要とすることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、「外出」が 28.4%で最も多く、「交通機関の利用」が 26.2%、「買い物」が 25.6%で続いており、主に家の外での活動への介助が必要とされています。「介助を必要としない」は 41.5%となっています。

知的障害者調査では、介助を必要とする日常生活の場面として挙げた 19 項目のうち 9 項目で回答者の割合が過半数に達しています。上位 5 項目は「お金の管理」(66.9%)、「交通機関の利用」(59.0%)、「文字を書くこと」(57.8%)、「会話や意思の伝達」(57.4%)、「文章を読むこと」(57.0%) であり、身体障害者調査及び精神障害者調査とは傾向が異なります。

精神障害者調査では、「介助を必要としない」(53.1%) が過半数に達しており、「食事の準備や後片付け」(18.4%)、「掃除や洗濯」(17.3%) 以外の項目は 1 割未満にとどまっています。

図表 4 日常生活で介助が必要な場面

		全体	食事をする こと	寝 返りや起 き 上 がり	椅子 や車い す へ の 移 動	洗 面	家 の 中 の 移 動	着 替 え	ト イ レ	入 浴	外 出	車 の 乗 り 降 り
全体		1,740 100.0	205 11.8	145 8.3	193 11.1	206 11.8	174 10.0	283 16.3	251 14.4	398 22.9	529 30.4	306 17.6
アンケート の 種 類	身体障害者	1,391 100.0	139 10.0	134 9.6	172 12.4	139 10.0	151 10.9	209 15.0	167 12.0	298 21.4	395 28.4	260 18.7
	知的障害者	251 100.0	59 23.5	10 4.0	20 8.0	64 25.5	20 8.0	71 28.3	80 31.9	94 37.5	128 51.0	44 17.5
	精神障害者	98 100.0	7 7.1	1 1.0	1 1.0	3 3.1	3 3.1	3 3.1	4 4.1	6 6.1	6 6.1	2 2.0
		交通 機 関 の 利 用	食 事 の 準 備 や 後 片 付 け	掃 除 や 洗 濯	お 金 の 管 理	買 い 物	電 話 を か け る こ と	文 字 を 書 く こ と	文 章 を 読 む こ と	会 話 や 意 思 の 伝 達	介 助 を 必 要 と し な い	無 回 答
全体		519 29.8	449 25.8	490 28.2	391 22.5	501 28.8	338 19.4	410 23.6	311 17.9	291 16.7	661 38.0	153 8.8
アンケート の 種 類	身体障害者	365 26.2	307 22.1	342 24.6	216 15.5	356 25.6	209 15.0	259 18.6	164 11.8	140 10.1	577 41.5	123 8.8
	知的障害者	148 59.0	124 49.4	131 52.2	168 66.9	137 54.6	127 50.6	145 57.8	143 57.0	144 57.4	32 12.7	19 7.6
	精神障害者	6 6.1	18 18.4	17 17.3	7 7.1	8 8.2	2 2.0	6 6.1	4 4.1	7 7.1	52 53.1	11 11.2

## (5) 介助してくれる人（介助者）との関係

【介助を必要とすると回答した人に対する設問】あなたが介助を受けるのは、どなたですか。（あてはまるものすべてに○、最も機会が多い人には◎）

最も機会の多い介助者について見ると、身体障害者調査では「夫または妻」が44.4%、「子」が20.4%となっています。

知的障害者調査では「父母」が84.3%を占めています。

精神障害者調査では、同居家族がいない（自分ひとりで暮らしている）回答者が過半数に達していることから、「ホームヘルパー」「施設の職員」がそれぞれ30.8%と最も多くなっています。

図表 5 介助してくれる人（介助者）との関係【最も機会が多い介助者】

		全体	夫または妻	子	孫	父母	兄弟姉妹	祖父母	その他の親族
全体		654 100.0	213 32.6	97 14.8	2 0.3	173 26.5	14 2.1	1 0.2	3 0.5
アンケートの種類	身体障害者	475 100.0	211 44.4	97 20.4	1 0.2	40 8.4	11 2.3	-	1 0.2
	知的障害者	153 100.0	2 1.3	-	1 0.7	129 84.3	2 1.3	1 0.7	2 1.3
	精神障害者	26 100.0	-	-	-	4 15.4	1 3.8	-	-

		近所の人	友人・知人	ホームヘルパー	施設の職員	ボランティア	その他	無回答
全体		4 0.6	10 1.5	47 7.2	62 9.5	2 0.3	26 4.0	-
アンケートの種類	身体障害者	4 0.8	8 1.7	39 8.2	43 9.1	2 0.4	18 3.8	-
	知的障害者	-	1 0.7	-	11 7.2	-	4 2.6	-
	精神障害者	-	1 3.8	8 30.8	8 30.8	-	4 15.4	-

## (6) 介助を受ける上で困っていること

【介助を必要とすると回答した人に対する設問】あなたが介助を受ける上で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、「介助してもらおうことに気を使う」が32.9%と最も多く、「介助者の代わりになる人がいない」が20.8%、「経済的な負担が大きい」が19.8%で続きます。また、「特にない」は23.9%となっています。

知的障害者調査では、回答者の5割弱が「言いたいことがうまく伝わらない」(47.5%)を選んでおり、身体障害者調査と精神障害者調査の割合を大幅に上回っています。

精神障害者調査では、「介助してもらおうことに気を使う」が34.3%であるものの、「特にない」が37.1%であり、身体障害者調査及び知的障害者調査と比べても多くなっています。

図表 6 介助を受ける上で困っていること

		全体	介助してもらおうことに気を使う	経済的な負担が大きい	言いたいことがうまく伝わらない	介助者の代わりになる人がいない	介助のことを相談する人がいない	その他	特にない	無回答
全体		926 100.0	260 28.1	165 17.8	219 23.7	203 21.9	66 7.1	41 4.4	224 24.2	125 13.5
アンケートの種類	身体障害者	691 100.0	227 32.9	137 19.8	118 17.1	144 20.8	42 6.1	31 4.5	165 23.9	105 15.2
	知的障害者	200 100.0	21 10.5	24 12.0	95 47.5	56 28.0	20 10.0	10 5.0	46 23.0	17 8.5
	精神障害者	35 100.0	12 34.3	4 11.4	6 17.1	3 8.6	4 11.4	-	13 37.1	3 8.6

## (7) 困りごとや悩みの相談先

あなたは、日常生活で困ったことや悩みごとについて、どなたに相談していますか。  
(あてはまるものすべてに○)

各調査ともに上位4項目は「家族・親族」「仲間・友人・知人」「施設の職員、ホームヘルパー」「医師・看護師等」であり、これ以外の具体的な相談先の割合はほとんどが5%を下回っています。

身体障害者調査と知的障害者調査では「家族・親族」が6割台で最も多くなっているのに対し、精神障害者調査では「医師・看護師等」(68.4%)が最も多く、身体障害者調査及び知的障害者調査と比べても特に多くなっています。

図表 7 相談先

		全体	家族・親族	仲間・友人・知人	近所の人	施設の職員、ホームヘルパー	相談支援事業者	医師・看護師等	障害者団体・家族の会
全体		1,740 100.0	1,162 66.8	336 19.3	60 3.4	220 12.6	35 2.0	310 17.8	17 1.0
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	965 69.4	285 20.5	57 4.1	149 10.7	24 1.7	221 15.9	12 0.9
	知的障害者	251 100.0	152 60.6	26 10.4	1 0.4	43 17.1	7 2.8	22 8.8	5 2.0
	精神障害者	98 100.0	45 45.9	25 25.5	2 2.0	28 28.6	4 4.1	67 68.4	- -
		民生委員・児童委員	身体障害者相談員・知的障害者相談員	市の窓口	保健所・保健師	その他	相談する相手がいない	相談はしない	無回答
全体		27 1.6	17 1.0	38 2.2	11 0.6	55 3.2	40 2.3	173 9.9	127 7.3
アンケートの種類	身体障害者	22 1.6	13 0.9	26 1.9	6 0.4	29 2.1	37 2.7	130 9.3	109 7.8
	知的障害者	3 1.2	4 1.6	5 2.0	1 0.4	21 8.4	3 1.2	37 14.7	16 6.4
	精神障害者	2 2.0	- -	7 7.1	4 4.1	5 5.1	- -	6 6.1	2 2.0

## (8) 今後相談したいこと

今後、あなたが相談したい内容として、どのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

各調査ともに「日常生活について」「健康について」が上位3項目以内に入っています。

「就労について」という回答は、身体障害者調査では1割未満(5.5%)であるのに対し、知的障害者調査では第2位(26.7%)、精神障害者調査では第3位(31.6%)であり、それぞれ3割前後と多くなっています。「余暇活動について」という回答は、身体障害者調査(3.3%)、精神障害者調査(9.2%)では1割未満であるのに対し、知的障害者調査では21.1%と他の障害者調査に比べて多くなっています。

一方、「特にない」という回答は、知的障害者調査(18.7%)、精神障害者調査(15.3%)では1割台であるのに対し、身体障害者調査では32.9%を占めて多くなっています。

このほか、施設入所者調査では、第3位が「住まいについて」(21.3%)となっています。

図表 8 今後相談したいこと

		全体	日常生活について	健康について	情報・コミュニケーションについて	住まいについて	保育・療育・教育について	就労について	外出・バリアフリーについて
全体		1,787 100.0	409 22.9	546 30.6	120 6.7	169 9.5	65 3.6	179 10.0	174 9.7
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	291 20.9	433 31.1	73 5.2	113 8.1	16 1.2	77 5.5	139 10.0
	知的障害者	251 100.0	68 27.1	55 21.9	28 11.2	29 11.6	44 17.5	67 26.7	27 10.8
	精神障害者	98 100.0	35 35.7	45 45.9	14 14.3	17 17.3	3 3.1	31 31.6	1 1.0
	施設入所者	47 100.0	15 31.9	13 27.7	5 10.6	10 21.3	2 4.3	4 8.5	7 14.9
			余暇活動について	権利擁護について	災害・緊急時の対応について	その他	特にない	無回答	
全体		116 6.5	57 3.2	327 18.3	68 3.8	533 29.8	207 11.6		
アンケートの種類	身体障害者	46 3.3	21 1.5	266 19.1	39 2.8	458 32.9	169 12.1		
	知的障害者	53 21.1	26 10.4	50 19.9	22 8.8	47 18.7	33 13.1		
	精神障害者	9 9.2	6 6.1	10 10.2	6 6.1	15 15.3	3 3.1		
	施設入所者	8 17.0	4 8.5	1 2.1	1 2.1	13 27.7	2 4.3		

## (9) 情報収集や相談をする際に困っていること

あなたが情報収集や相談をするときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「どこに問い合わせたらよいかわからない」が最も多く、「身近な場に相談するところがない」が続きます。また、「特に困っていない」は身体障害者調査と精神障害者調査で過半数に達しています。

図表 9 情報収集や相談をする際に困っていること

	全体	身近な場に相談するところがない	電話やファクシミリを使った情報収集や相談がしにくい	インターネットを使った情報収集や相談がしにくい	点字版や録音テープなどによる情報提供が少ない	相談先で、周りの人に相談内容が聞こえてしまう	どこに問い合わせたらよいかわからない	その他	特に困っていない	無回答	
全体	1,740 100.0	168 9.7	81 4.7	76 4.4	10 0.6	34 2.0	302 17.4	69 4.0	911 52.4	304 17.5	
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	127 9.1	62 4.5	56 4.0	8 0.6	26 1.9	216 15.5	43 3.1	762 54.8	248 17.8
	知的障害者	251 100.0	32 12.7	13 5.2	14 5.6	2 0.8	6 2.4	66 26.3	23 9.2	90 35.9	51 20.3
	精神障害者	98 100.0	9 9.2	6 6.1	6 6.1	-	2 2.0	20 20.4	3 3.1	59 60.2	5 5.1

## (10) 学校教育修了後の希望進路

※25歳未満の方とその保護者の方が対象

あなたは、学校教育修了後の進路について、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

身体障害者調査では、「特に考えていない」が全体の4分の1(26.3%)を占めています。具体的な希望進路としては、「短期大学・大学に進学したい」が23.7%となっています。

知的障害者調査では「通所施設を利用したい」が32.5%と最も多く、「一般企業や役所に就職したい」が25.0%で続いています。身体障害者調査で多い「短期大学・大学に進学したい」は1.7%にとどまっています。

図表 10 学校教育修了後の希望進路

		全体	短期大学・大学に進学したい	専修学校・専門学校に進学したい	高等技術専門校に進学したい	一般企業や役所に就職したい	通所施設を利用したい	障害者の入所施設を利用したい	特に考えていない	その他	無回答
全体		159 100.0	11 6.9	3 1.9	1 0.6	34 21.4	45 28.3	6 3.8	28 17.6	9 5.7	22 13.8
アンケートの種類	身体障害者	38 100.0	9 23.7	1 2.6	-	4 10.5	6 15.8	1 2.6	10 26.3	3 7.9	4 10.5
	知的障害者	120 100.0	2 1.7	2 1.7	1 0.8	30 25.0	39 32.5	5 4.2	18 15.0	5 4.2	18 15.0
	精神障害者	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-

(11) 就労の有無と種類 ※15歳以上の方が対象

あなたは、現在働いて（収入のある仕事に就いて）いますか。（どれか1つに○）

身体障害者調査・精神障害者調査では「働いている」がほぼ2割であるのに対し、「働いていない」が過半数に達しています（ただし、身体障害者調査では回答者の大半が65歳以上であることに留意する必要があります）。一方、知的障害者調査では、「働いている」が過半数（52.8%）であり、「働いていない」は4割弱（38.2%）です。

就労の種類については、身体障害者では「一般就労」が7.8%、「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」が6.0%となっています（働いていない人を含めた回答者全体に占める割合。以下同じ）。精神障害者では「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」がそれぞれ6.3%、「一般就労」が4.2%で続きます。

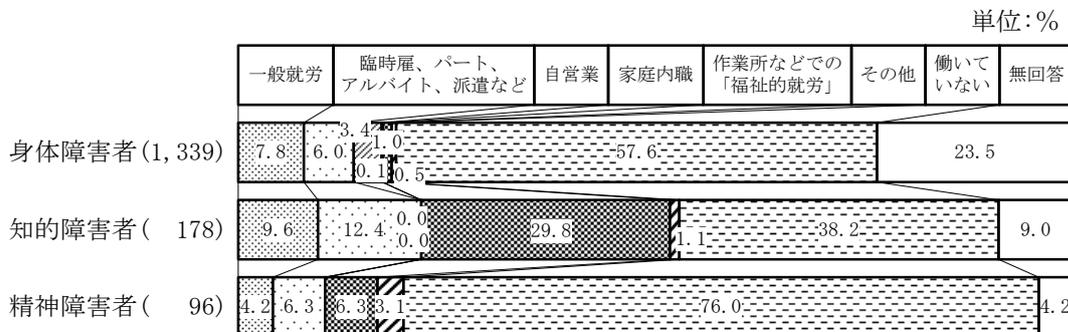
知的障害者については、「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」が29.8%と多くなっています。

図表 11 就労の有無

		全体	働いている	働いていない	無回答
全体		1,613 100.0	366 22.7	912 56.5	335 20.8
アンケートの種類	身体障害者	1,339 100.0	253 18.9	771 57.6	315 23.5
	知的障害者	178 100.0	94 52.8	68 38.2	16 9.0
	精神障害者	96 100.0	19 19.8	73 76.0	4 4.2

※「働いている」は「一般就労」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」「その他」の合計。

図表 12 就労の有無と種類



(12) 月平均収入 ※15歳以上の方が対象

【現在働いていると回答した人に対する設問】あなたの労働による1ヶ月の平均収入総額（ボーナスや障害年金等を除く月の給与）を教えてください。税金や年金、施設への利用料などを引かれる前の総額です。（どれか1つに○）

身体障害者調査では、回答者の5割弱（47.8%）が15万円以上の月平均収入を得ており、特に全体の3分の1（34.0%）は20万円以上となっています。

一方、知的障害者調査では、月平均収入が3万円未満の回答者が過半数（52.1%）に達しており、15万円以上という回答は1割未満（7.5%）にとどまっています。

図表 13 月平均収入

		全体	1万円未満	1～3万円未満	3～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～30万円未満	30万円以上	無回答
全体		366 100.0	49 13.4	35 9.6	18 4.9	74 20.2	41 11.2	42 11.5	46 12.6	42 11.5	19 5.2
アンケートの種類	身体障害者	253 100.0	10 4.0	14 5.5	13 5.1	54 21.3	28 11.1	35 13.8	44 17.4	42 16.6	13 5.1
	知的障害者	94 100.0	31 33.0	18 19.1	5 5.3	16 17.0	12 12.8	6 6.4	1 1.1	-	5 5.3
	精神障害者	19 100.0	8 42.1	3 15.8	-	4 21.1	1 5.3	1 5.3	1 5.3	-	1 5.3

(13) 仕事で困っていること ※15歳以上の方が対象

【現在働いていると回答した人に対する設問】あなたが仕事をする上で、困ったり、つらいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

身体障害者調査、知的障害者調査とも「収入が少ない」が3割前後で最も多く、身体障害者調査では「肉体的につらい」が17.8%、知的障害者調査では「通勤が大変」が23.4%で続きます。「困ったり、つらいことは特にない」は4割弱となっています。

「職場の人間関係」という回答は、身体障害者調査では1割未満（6.3%）であるのに対し、知的障害者調査では22.3%と多くなっています。

図表 14 仕事で困っていること

		全体	通勤が大変	収入が少ない	肉体的につらい	仕事が終わらない	職場の人間関係	職場の中で整備されていない環境が得にくい	職場の中で介助者を得にくい	その他	困ったり、つらいことは特にない	無回答
全体		366 100.0	63 17.2	107 29.2	57 15.6	11 3.0	42 11.5	19 5.2	9 2.5	19 5.2	141 38.5	33 9.0
アンケートの種類	身体障害者	253 100.0	39 15.4	66 26.1	45 17.8	8 3.2	16 6.3	11 4.3	2 0.8	11 4.3	99 39.1	24 9.5
	知的障害者	94 100.0	22 23.4	30 31.9	9 9.6	3 3.2	21 22.3	6 6.4	6 6.4	6 6.4	36 38.3	8 8.5
	精神障害者	19 100.0	2 10.5	11 57.9	3 15.8	-	5 26.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5	6 31.6	1 5.3

(14) 障害のある人の一般就労のため必要なこと

※15歳以上の方が対象

あなたは、障害のある人が、企業などで一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

各調査とも「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が上位を占めています。

身体障害者調査と精神障害者調査では、「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援」が2割強で続いています。一方、知的障害者調査では「ジョブコーチなど、職場に定着するための支援」(18.0%)が2割弱であり、精神障害者調査(11.5%)、身体障害者調査(1.8%)に比べて多くなっています。

このほか、精神障害者調査では「特にない」も22.9%と多くなっています。

図表 15 障害のある人の一般就労のため必要なこと

	全体	仕事探しから就労までの総合的な相談支援	働くための知識・能力を身につける職業訓練	職場を理解するための就労体験	障害の特性にあった職業・雇用の拡大	障害者向けの求人情報の提供	障害理解を促進するための職場への働きかけ	職場のバリアフリー化	障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援	ジョブコーチなど、職場に定着するための支援	その他	特にない	無回答
全体	1,613 100.0	440 27.3	217 13.5	77 4.8	416 25.8	170 10.5	172 10.7	96 6.0	340 21.1	67 4.2	24 1.5	149 9.2	636 39.4
アンケートの種類													
身体障害者	1,339 100.0	351 26.2	176 13.1	52 3.9	334 24.9	139 10.4	132 9.9	93 6.9	288 21.5	24 1.8	15 1.1	112 8.4	572 42.7
知的障害者	178 100.0	57 32.0	23 12.9	15 8.4	58 32.6	17 9.6	30 16.9	3 1.7	30 16.9	32 18.0	7 3.9	15 8.4	49 27.5
精神障害者	96 100.0	32 33.3	18 18.8	10 10.4	24 25.0	14 14.6	10 10.4	-	22 22.9	11 11.5	2 2.1	22 22.9	15 15.6

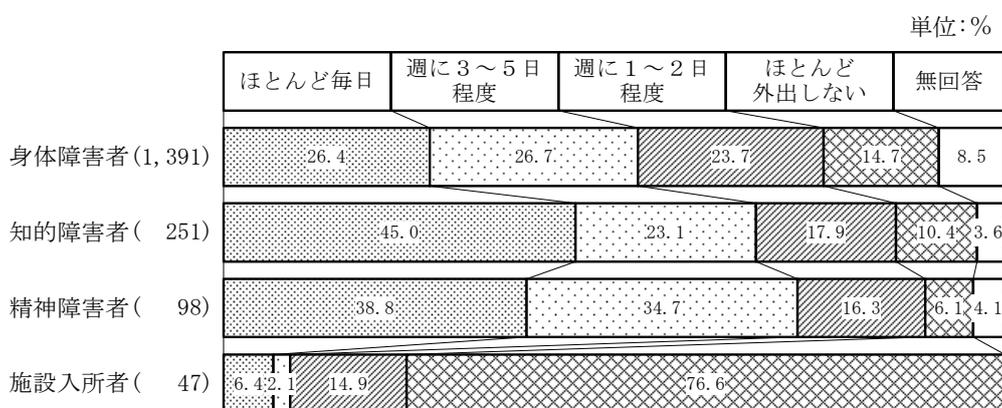
## (15) 外出の頻度

ふだん、あなたは週に何日くらい外出しますか。(どれか1つに○)

身体障害者調査では、「ほとんど毎日」が26.4%、「週に3～5日程度」が26.7%となっています。知的障害者調査では、「ほとんど毎日」が45.0%、「週に3～5日程度」が23.1%となっています。精神障害者調査では、「ほとんど毎日」が38.8%、「週に3～5日程度」が34.7%となっています。

施設入所者調査では、「ほとんど外出しない」(76.6%)が全体の8割弱を占めており、「ほとんど毎日」(6.4%)は1割未満にとどまっています。

図表 16 外出の頻度



## (16) 余暇時間にしていること

あなたは、時間に余裕があるときにどのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「家でゆっくりくつろぐ」が最も多く、知的障害者調査と精神障害者調査、施設入所者調査で7割強、身体障害者調査で6割となっています。

このほか、知的障害者調査と精神障害者調査では「デパートや店などに出かける」が3割強となっています。

図表 17 余暇時間にしていること

	全体	家でゆっくりくつろぐ	家で趣味、操、学習活動などを行う	家の周りを散歩する	会って交流を深める	友人や知人との交流	デパートや店などに出かける	映画、音楽、観劇、行事などへ行く	スポーツに出かける	図書館や博物館などへ行く	その他	特に何もしていない	無回答
全体	1,787	1,125	389	423	384	441	268	149	143	118	166	131	
	100.0	63.0	21.8	23.7	21.5	24.7	15.0	8.3	8.0	6.6	9.3	7.3	
アンケートの種類													
身体障害者	1,391	841	294	329	326	316	199	108	118	91	136	119	
	100.0	60.5	21.1	23.7	23.4	22.7	14.3	7.8	8.5	6.5	9.8	8.6	
知的障害者	251	179	60	61	32	87	44	27	16	16	20	9	
	100.0	71.3	23.9	24.3	12.7	34.7	17.5	10.8	6.4	6.4	8.0	3.6	
精神障害者	98	72	24	21	21	32	19	12	8	8	6	3	
	100.0	73.5	24.5	21.4	21.4	32.7	19.4	12.2	8.2	8.2	6.1	3.1	
施設入所者	47	33	11	12	5	6	6	2	1	3	4	-	
	100.0	70.2	23.4	25.5	10.6	12.8	12.8	4.3	2.1	6.4	8.5	-	

## (17) 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

あなたは、障害があることが原因で、人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、いずれの項目とも1割未満であり、「特にない」が66.8%を占めています。

知的障害者調査では「差別的な言葉を言われた」(28.7%)、「医療機関から受診や治療を断られた」(10.0%)が身体障害者調査、精神障害者調査と比べて多く、精神障害者調査では「希望する仕事に就けなかった」(16.3%)が身体障害者調査、知的障害者調査と比べて多くなっています。

施設入所者調査は、いずれの項目とも1割未満であり、「特にない」が66.0%を占めています。

図表 18 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

		全体	希望した学校に入学できなかった	希望する仕事に就けなかった	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い	交通機関や施設の利用を断られた	医療機関から受診や治療を断られた	賃貸物件への入居や転入の際に、障害を理由に断られた	飲食店やホテルなどで利用を断られた	差別的な言葉を言われた	その他	特にない	無回答
全体		1,787 100.0	44 2.5	88 4.9	67 3.7	24 1.3	50 2.8	25 1.4	10 0.6	198 11.1	74 4.1	1,104 61.8	301 16.8
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	21 1.5	56 4.0	38 2.7	15 1.1	23 1.7	11 0.8	9 0.6	103 7.4	43 3.1	929 66.8	258 18.5
	知的障害者	251 100.0	18 7.2	14 5.6	22 8.8	8 3.2	25 10.0	5 2.0	-	72 28.7	23 9.2	90 35.9	33 13.1
	精神障害者	98 100.0	1 1.0	16 16.3	5 5.1	1 1.0	2 2.0	7 7.1	-	19 19.4	5 5.1	54 55.1	7 7.1
	施設入所者	47 100.0	4 8.5	2 4.3	2 4.3	-	-	2 4.3	1 2.1	4 8.5	3 6.4	31 66.0	3 6.4

## (18) 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

障害者虐待の防止のために、あなたは、市がどのような制度や体制を整備する必要がありますか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「通報や相談を受ける機関」が最も多く、知的障害者調査では5割弱(49.0%)、身体障害者調査と精神障害者調査では4割前後を占めています。

知的障害者調査では「福祉職員や市民などへの虐待防止のための啓発活動」(35.9%)「市職員や福祉施設の職員などに対する権利擁護や虐待防止のための研修」(33.1%)が身体障害者調査と精神障害者調査に比べて多くなっています。

施設入所者調査では、回答者の5割弱が「特にない」(46.8%)を選んでおり、他の調査に比べて多くなっています。

図表 19 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

		全体	通報や相談を受ける機関	緊急一時保護施設など避 する場所	関係機関による支援のネット ワーク	福祉職員や市民などへの虐待 防止のための啓発活動	市職員や福祉施設の職員などに 対する権利擁護や虐待防止の ための研修	地域の民生委員などとの連携	その他	特にな い	無回 答
全体		1,787 100.0	720 40.3	517 28.9	412 23.1	351 19.6	328 18.4	378 21.2	50 2.8	364 20.4	339 19.0
アンケート の種類	身体障害者	1,391 100.0	546 39.3	400 28.8	309 22.2	231 16.6	220 15.8	286 20.6	29 2.1	273 19.6	291 20.9
	知的障害者	251 100.0	123 49.0	87 34.7	75 29.9	90 35.9	83 33.1	62 24.7	16 6.4	39 15.5	33 13.1
	精神障害者	98 100.0	40 40.8	25 25.5	21 21.4	22 22.4	15 15.3	23 23.5	2 2.0	30 30.6	10 10.2
	施設入所者	47 100.0	11 23.4	5 10.6	7 14.9	8 17.0	10 21.3	7 14.9	3 6.4	22 46.8	5 10.6

## (19) 成年後見制度の認知状況

あなたは、成年後見制度を知っていますか。(どれか1つに○)

身体障害者調査、知的障害者調査では「聞いたことがあり、内容まで知っている」が2割前後、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が4割強を占めており、回答者の6割強が成年後見制度について聞いたことがあるということがわかります。「聞いたことがない」は3割前後です。

精神障害者調査では、成年後見制度について聞いたことがあるという回答(51.1%)が5割強であり、身体障害者調査及び知的障害者調査の割合を下回っています。

施設入所者調査では、成年後見制度について聞いたことがあるという回答(27.7%)が3割弱にとどまっており、「聞いたことがない」(59.6%)がほぼ6割となっています。「聞いたことがない」の割合が他の調査に比べて特に多くなっています。

図表 20 成年後見制度の認知状況

単位:%

	聞いたことがあり、 内容まで知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	聞いたことがない	無回答
身体障害者(1,391)	19.6	43.1	27.3	9.9
知的障害者(251)	21.1	42.6	31.5	4.8
精神障害者(98)	13.3	37.8	44.9	4.1
施設入所者(47)	12.8	14.9	59.6	12.8

## (20) 緊急な病状になったときに不安なこと

もし、あなたが緊急な病状になったことを考えるとき、特に不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「自分だけでは動けない」が最も多く、特に知的障害者調査でほぼ6割(59.4%)、施設入所者調査で6割弱(57.4%)を占めています。

知的障害者調査では「状況を周囲の人に伝えることが困難」(52.6%)、「電話などの連絡の手段が使えない」(45.0%)という回答が5割前後となっており、身体障害者調査及び精神障害者調査に比べて多くなっています。

精神障害者調査では「緊急なときに頼れる人がいない」(25.5%)、「寝込んだときの介助者がいない」(19.4%)という回答が身体障害者調査及び知的障害者調査に比べて多くなっています。

施設入所者調査では、回答者のほぼ3割が「特に不安はない」(29.8%)を選んでおり、他の調査に比べて多くなっています。

図表 21 緊急な病状になったときに不安なこと

		全体	自分だけでは動けない	状況を周囲の人に伝えることが困難に	電話などの連絡の手段が使えない	頼れる緊急なときに人がいない	経済的な負担が増える	寝込んだときの介助者がいない	仕事ができなくなる
全体		1,787 100.0	783 43.8	369 20.6	320 17.9	212 11.9	316 17.7	195 10.9	157 8.8
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	576 41.4	206 14.8	201 14.5	141 10.1	248 17.8	152 10.9	122 8.8
	知的障害者	251 100.0	149 59.4	132 52.6	113 45.0	46 18.3	40 15.9	24 9.6	22 8.8
	精神障害者	98 100.0	31 31.6	17 17.3	6 6.1	25 25.5	22 22.4	19 19.4	11 11.2
	施設入所者	47 100.0	27 57.4	14 29.8	-	-	6 12.8	-	2 4.3
			子どもや高齢者などの世話をする人がいない	寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手	その他	特に不安はない	無回答
全体		54 3.0	174 9.7	335 18.7	214 12.0	65 3.6	336 18.8	188 10.5	
アンケートの種類	身体障害者	47 3.4	125 9.0	255 18.3	157 11.3	45 3.2	267 19.2	167 12.0	
	知的障害者	6 2.4	40 15.9	60 23.9	46 18.3	14 5.6	34 13.5	15 6.0	
	精神障害者	1 1.0	9 9.2	10 10.2	11 11.2	5 5.1	21 21.4	6 6.1	
	施設入所者	-	-	10 21.3	-	1 2.1	14 29.8	-	

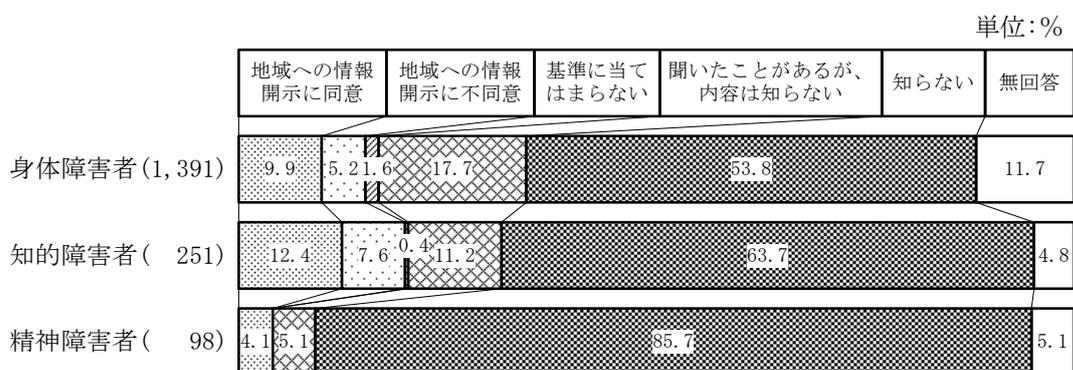
## (21) 「災害時要援護者台帳」の認知状況

あなたは、災害時要援護者台帳を知っていますか。(どれか1つに○)

各調査とも「知らない」が過半数を占めており、精神障害者調査では9割弱(85.7%)となっています。身体障害者調査と知的障害者調査では、「知らない」「名前は聞いたことがあるが、どのようなものかは知らない」を合わせると、7割強となっています。

災害時要援護者台帳を知っている(「要援護者台帳を知っていて、地域への情報開示に同意している」「要援護者台帳を知っているが、地域への情報開示には同意していない」「要援護者台帳を知っているが、台帳に記載される基準に当てはまらない」の合計)という回答は、身体障害者調査と知的障害者調査で2割前後にとどまっているほか、精神障害者調査(9.2%)では1割に達していません。

図表 22 「災害時要援護者台帳」の認知状況



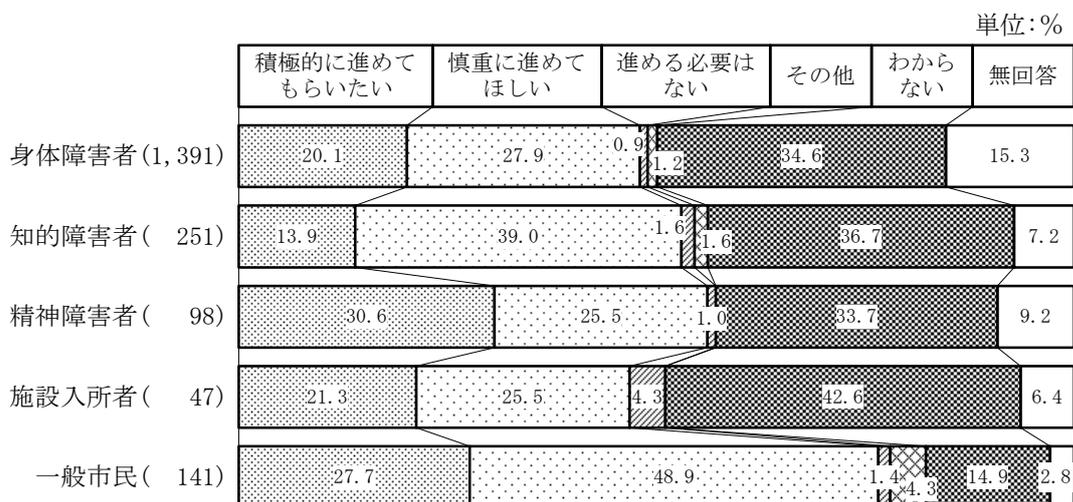
## (22) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

精神障害者調査では、「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」(30.6%)が「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」(25.5%)を上回っていますが、これ以外の調査では「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」を上回っており、その差は知的障害者調査及び市民調査で20ポイントを超えています。

このほか、一般市民調査を除く各調査とも、「わからない」という回答が3割以上を占めています。

図表 23 入所者・入院者の地域生活移行への考え方



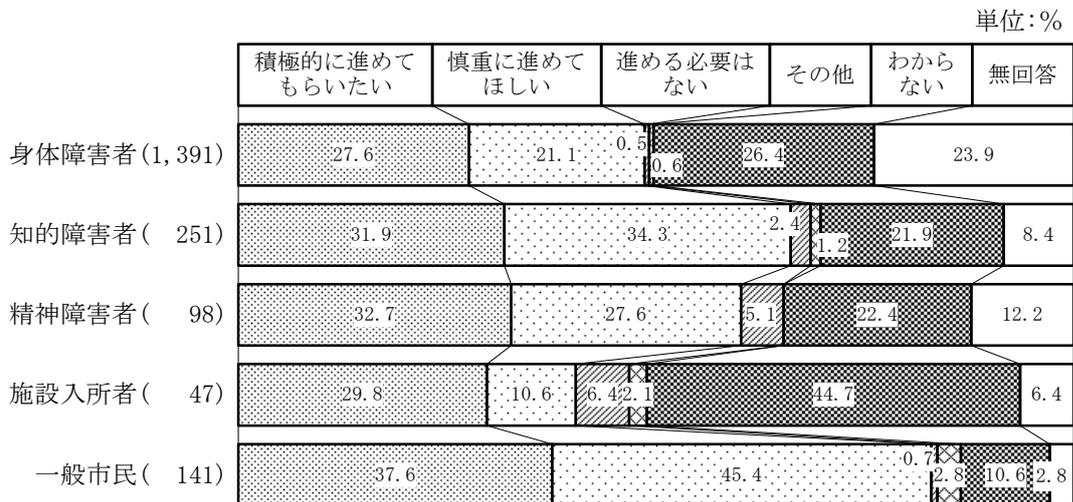
## (23) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはごどう思いますか。（どれか1つに○）

身体障害者調査と精神障害者調査、施設入所者調査では、「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」を上回っていますが、知的障害者調査と一般市民調査では「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」を上回っています。

施設入所者調査では、「わからない」という回答が4割強（44.7%）を占めています。

図表 24 福祉的就労から一般就労への移行への考え方



## (24) 障害福祉サービスの利用意向

今後、あなたが利用したいと思う障害福祉サービスは何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査と精神障害者調査では、「居宅介護」という回答が2割で最も多く、身体障害者調査では「生活介護」が10.4%、精神障害者調査では「就労移行支援」が19.4%で続きます。

知的障害者調査では「短期入所」が22.3%で最も多く、「グループホーム」が19.1%で続きます。

「どれも利用したいとは思わない」は、身体障害者調査で31.1%、精神障害者調査で25.5%となっています。

施設入所者調査では、「施設入所支援」が34.0%で最も多く、「生活介護」が27.7%で続きます。

図表 25 障害福祉サービスの利用意向

		全体	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	短期入所	重度障害者等包括支援
全体		1,787 100.0	336 18.8	46 2.6	98 5.5	106 5.9	89 5.0	201 11.2	198 11.1	60 3.4
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	285 20.5	41 2.9	55 4.0	68 4.9	76 5.5	144 10.4	138 9.9	47 3.4
	知的障害者	251 100.0	22 8.8	5 2.0	38 15.1	27 10.8	10 4.0	37 14.7	56 22.3	8 3.2
	精神障害者	98 100.0	20 20.4	-	1 1.0	6 6.1	2 2.0	7 7.1	1 1.0	2 2.0
	施設入所者	47 100.0	9 19.1	-	4 8.5	5 10.6	1 2.1	13 27.7	3 6.4	3 6.4
		ケアホーム	施設入所支援	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	グループホーム	どれも利用したいとは思わない	無回答
全体		89 5.0	199 11.1	150 8.4	75 4.2	27 1.5	47 2.6	117 6.5	496 27.8	403 22.6
アンケートの種類	身体障害者	60 4.3	134 9.6	89 6.4	21 1.5	6 0.4	8 0.6	46 3.3	432 31.1	340 24.4
	知的障害者	21 8.4	43 17.1	47 18.7	33 13.1	15 6.0	30 12.0	48 19.1	33 13.1	47 18.7
	精神障害者	4 4.1	6 6.1	10 10.2	19 19.4	4 4.1	5 5.1	16 16.3	25 25.5	10 10.2
	施設入所者	4 8.5	16 34.0	4 8.5	2 4.3	2 4.3	4 8.5	7 14.9	6 12.8	6 12.8

## (25) 福祉サービス情報の入手方法

あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのようなところで知ることが多いですか。(主なもの2つまでに○)

各調査とも「市の広報紙「広報ふなばし」」が上位2項目以内に入っています。「市の広報紙「広報ふなばし」」は身体障害者調査で45.1%、知的障害者調査で23.1%であり、精神障害者調査及び施設入所者調査に比べて多くなっています。

このほか、知的障害者調査では「家族や仲間」(21.5%)が、精神障害者調査では「医師・看護師等」(30.6%)が他の調査に比べて多くなっています。

施設入所者調査では、「障害者施設」(25.5%)という回答が他の調査に比べて特に多くなっていますが、「特にない」という回答も29.8%と多くなっています。

一般市民調査では、「市の広報紙「広報ふなばし」」(50.4%)に続いて「マスメディアの記事や番組」が41.1%となっており、他の調査に比べて多くなっています。

図表 26 福祉サービス情報の入手方法

アンケートの種類		全体	市の広報紙「広報ふなばし」	市障害福祉課が発行する「福祉のしおり」	市役所や市の機関などにあるパンフレット	市のホームページ	市障害福祉課への問合せ	障害者団体などの機関紙やパンフレット、ホームページ	市や障害者団体以外のホームページ	マスメディアの記事や番組					
											数	割合	数	割合	数
	全体	1,928	777	269	103	97	160	43	1	174					
		100.0	40.3	14.0	5.3	5.0	8.3	2.2	0.1	9.0					
アンケートの種類	身体障害者	1,391	628	214	81	71	117	27	-	93					
		100.0	45.1	15.4	5.8	5.1	8.4	1.9	-	6.7					
	知的障害者	251	58	41	9	11	37	12	-	12					
		100.0	23.1	16.3	3.6	4.4	14.7	4.8	-	4.8					
	精神障害者	98	13	3	8	4	3	3	-	5					
	100.0	13.3	3.1	8.2	4.1	3.1	3.1	-	5.1						
施設入所者	47	7	1	4	1	3	-	-	6						
	100.0	14.9	2.1	8.5	2.1	6.4	-	-	12.8						
一般市民	141	71	10	1	10	-	1	1	58						
	100.0	50.4	7.1	0.7	7.1	-	0.7	0.7	41.1						

アンケートの種類		社会福祉協議会	民生委員・児童委員	障害者施設	医師・看護師等	家族や仲間	その他	特にない	無回答
	全体	12	15	84	136	152	58	253	331
		0.6	0.8	4.4	7.1	7.9	3.0	13.1	17.2
アンケートの種類	身体障害者	10	10	31	98	83	34	163	258
		0.7	0.7	2.2	7.0	6.0	2.4	11.7	18.5
	知的障害者	1	2	35	3	54	11	32	42
		0.4	0.8	13.9	1.2	21.5	4.4	12.7	16.7
	精神障害者	-	-	6	30	9	8	20	15
	100.0	-	-	6.1	30.6	9.2	8.2	20.4	15.3
施設入所者	-	-	12	5	-	1	14	4	
	100.0	-	-	25.5	10.6	-	2.1	29.8	8.5
一般市民	1	3	-	-	6	4	24	12	
	100.0	0.7	2.1	-	-	4.3	2.8	17.0	8.5

## (26) 今後必要だと思う福祉施策

あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。(主なもの3つまでに○)

身体障害者調査では、「医療費の軽減」が41.7%で最も多く、「所得保障の充実」が23.6%、「社会福祉施設の充実」が21.3%で続きます。「医療費の軽減」という回答は他の調査に比べて多くなっています。

知的障害者調査では、「働く場の確保」が31.9%で最も多く、「社会福祉施設の充実」が25.1%、「所得保障の充実」が19.5%で続きます。

精神障害者調査では、「所得保障の充実」が39.8%で最も多く、「働く場の確保」が25.5%、「医療費の軽減」が22.4%で続きます。

「働く場の確保」という回答は、身体障害者調査(9.6%)では1割未満にとどまっているのに対し、知的障害者調査(31.9%)、精神障害者調査(25.5%)では3割前後となっています。

施設入所者調査では、「障害に適した住宅の確保」が23.4%で最も多くなっています。

一般市民調査では、「家族が休養できる体制」が28.4%で最も多く、「能力に応じた職業訓練」が25.5%、「介助体制の充実」が23.4%で続いており、障害者を対象とした他の調査とは傾向が異なります。

図表 27 今後必要だと思う福祉施策

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実
全体		1,928 100.0	445 23.1	685 35.5	412 21.4	204 10.6	117 6.1	293 15.2	274 14.2
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	328 23.6	580 41.7	296 21.3	135 9.7	94 6.8	215 15.5	194 13.9
	知的障害者	251 100.0	49 19.5	44 17.5	63 25.1	28 11.2	7 2.8	32 12.7	43 17.1
	精神障害者	98 100.0	39 39.8	22 22.4	13 13.3	15 15.3	3 3.1	4 4.1	14 14.3
	施設入所者	47 100.0	7 14.9	7 14.9	9 19.1	11 23.4	3 6.4	9 19.1	6 12.8
	一般市民	141 100.0	22 15.6	32 22.7	31 22.0	15 10.6	10 7.1	33 23.4	17 12.1
		専門的訓練	能力に応じた職業訓練	働く場の確保	リスポート・アクションの充実	家族が休養できる体制	差別の解消や権利を擁護する体制	その他	無回答
全体		195 10.1	150 7.8	274 14.2	97 5.0	303 15.7	126 6.5	41 2.1	429 22.3
アンケートの種類	身体障害者	161 11.6	63 4.5	134 9.6	62 4.5	211 15.2	60 4.3	27 1.9	314 22.6
	知的障害者	9 3.6	35 13.9	80 31.9	15 6.0	43 17.1	34 13.5	6 2.4	57 22.7
	精神障害者	4 4.1	13 13.3	25 25.5	6 6.1	8 8.2	15 15.3	4 4.1	17 17.3
	施設入所者	3 6.4	3 6.4	3 6.4	7 14.9	1 2.1	7 14.9	4 8.5	10 21.3
	一般市民	18 12.8	36 25.5	32 22.7	7 5.0	40 28.4	10 7.1	-	31 22.0

## 自由回答

船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望、または困っていることなどを、自由にお書きください。

自由回答欄に具体的な記入があった回答者数は、各調査合計で 461 人です。身体障害者調査と知的障害者調査では、「生活支援・福祉サービス」に関する回答が最も多くなっています。このほか、身体障害者調査では「生活環境」「保健・医療」に関する回答が、知的障害者調査では「教育・育成」に関する回答が多くなっています。回答の内容は多岐にわたっており、「その他」に分類されるものも目立ちます。

図表 28 自由回答【テーマ別】

		全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
全体		461 100.0	30 6.5	42 9.1	23 5.0	25 5.4	191 41.4	47 10.2	9 2.0	175 38.0
アンケートの種類	身体障害者	304 100.0	12 3.9	35 11.5	5 1.6	6 2.0	123 40.5	37 12.2	7 2.3	120 39.5
	知的障害者	96 100.0	4 4.2	3 3.1	17 17.7	11 11.5	49 51.0	4 4.2	1 1.0	34 35.4
	精神障害者	18 100.0	2 11.1	-	-	5 27.8	7 38.9	-	-	7 38.9
	施設入所者	10 100.0	-	1 10.0	-	1 10.0	5 50.0	-	-	3 30.0
	一般市民	33 100.0	12 36.4	3 9.1	1 3.0	2 6.1	7 21.2	6 18.2	1 3.0	11 33.3

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると 100%を超えます。

### 【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

#### ①啓発・広報

- ・障害者福祉施策の活動内容を一部の障害者だけではなく、もっとアピールするべきだと思います。(身体障害者、女性、41 歳)
- ・障害者への偏見、差別が少なくなってくればよいと思います。(精神障害者、男性、44 歳)
- ・ノーマライゼーションを進め、障害者も社会の一員であることが当たり前の社会にしましょう。触れ合う機会が少なすぎます。(一般市民、女性、52 歳)

#### ②保健・医療

- ・医療費自己負担分の公費補助は大変助かります。今後も続けて下さい。(身体障害者、

男性、75歳)

- ・障害者本人が病気になった時、病院がない。特にケガや歯医者がない。障害が重いのですぐ受け入れてくれる病院があるとよいのですが。(知的障害者、女性、73歳)

### ③教育・育成

- ・小学校は、自閉・情緒クラスはあるが、中学・高校にも、自閉・情緒クラスを加えてほしい。各小学校にも、どんどん知的・自閉・情緒クラスを増やして、学区の小学校に6年間通わせて、送迎の負担や自分で通学出来るようにしたい。障害を持っているお子さんが沢山いるので、住みやすい市にして頂きたい。(知的障害者、女性、43歳)
- ・今、特別支援学校に通っているなので、やはり卒業後、将来的な不安が一番大きい。(知的障害者、男性、10歳)

### ④雇用・就業

- ・もっともっと市が就職や自立の為に力を入れて、障害者にも働く労働力としての場を開拓してほしい。やれる事を増やして、良い意味で利用活用してほしい。(知的障害者、男性、10歳)
- ・企業が障害者への就労場所の提供をお願いしたい(企業は利益を求める集団なので、そういうことは難しいかもしれないが)。(精神障害者、女性、45歳)
- ・障害者がいきいきと働ける場が少ないように思う。障害を持った子ども達が明るい未来を描けるような施策をよろしく願います。(一般市民、女性、55歳)

### ⑤生活支援、福祉サービス

- ・色々とサービスも充実してきて、嬉しく思っています。でもサービスを使うのにスタッフの数が不足しているように思います。施設の職員等、サービス事業者等のスタッフが増えてくれると、利用する者としても気軽にお願いできます。まだまだ気軽に、気軽にという状況ではないようです。よろしく願いいたします。(知的障害者、男性、30歳)
- ・女性職員(正職)が少なく困っている。十分に同性介助が受けられない。(施設入所者、女性、55歳)
- ・自立、勤労を希望する人は支援がしやすいが、在宅介護が必要な人は家族が休養できる制度も整えてあげて欲しい。表に出にくい人々もしっかり支えていける地域活動の輪が広がるようにして欲しい。(一般市民、女性、44歳)
- ・人工透析に通っているため、タクシー券については助かっています。船橋市は、福祉施策が充実していて良いと思います。免除も助かっています。(身体障害者、女性、73歳)
- ・手続き等が多い。1年更新のものが多く、常に更新手続き等をしている印象、このような負担を減らすことも考えてほしい。(身体障害者、女性、1歳)

## ⑥生活環境

- ・車いすで外に出た時に、歩道の狭さ、段差、傾斜がすごいので、外へ出る事があまりありません。この事について、検討して頂けると嬉しいです。(身体障害者、女性、65歳)
- ・エスカレーターの上りは多いが下りが少ない。障害者にとっては階段を下りる方が不安、恐怖が大きいと思います(公共施設でのバリアフリーの充実)。(一般市民、男性、56歳)
- ・災害時の不安解消。地震、風水害災害時に福祉避難におけるストーマ装具の緊急対応、オストメイトの方は一人、一人異なるために装具を船橋市福祉サービス部等に管理、保管していただく方向で、ご検討いただければと考えております。(身体障害者、女性、72歳)

## ⑦スポーツ・レクリエーション等

- ・現在の状態を保つために運動等をしてはいますが、筋肉をつけることが大変、難しいです。軽い障害者ですが、何もしなければ変形になっている関節を取り替えていくことになりますので、ストレッチ体操を出来るようにして下さい。(身体障害者、女性、67歳)
- ・年金だけで生活する者です。本当は毎日すごくひまなのです。内職でもと思っても、年齢でダメです。地域に気軽に行って、安く飲み物でも飲める集会所(喫茶店)みたいな所が近くにあったらいいなと思うけど、無理ですよ。これは私の希望です。(身体障害者、性別、年齢無回答)

## ⑧その他

- ・突然のアンケートで驚きましたが、健常者である自身、家族ですので、改めて考えることがないテーマで、これからは少しは意識すべき事と思いました。少しでも、障害を持っている方、ご家族様にとって良い方向に行くよう、このアンケートが活用されることを願っております。(一般市民、女性、44歳)
- ・アンケート調査について。1. 介護給付等、各専門用語の内容が分からず記入ができない。2. 質問項目が多すぎて数時間要した。少し簡略化できないか。(身体障害者、女性、76歳)

### 3 アンケート調査結果(種類別)

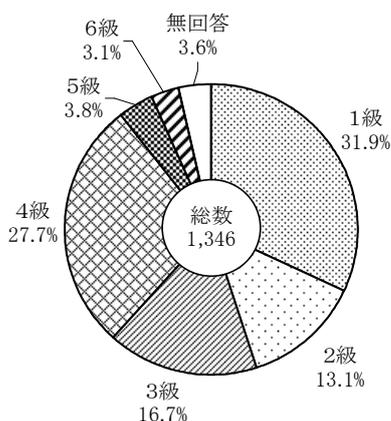
#### I 身体障害者を対象とした調査結果

##### (1) 身体障害者手帳の等級と取得年齢

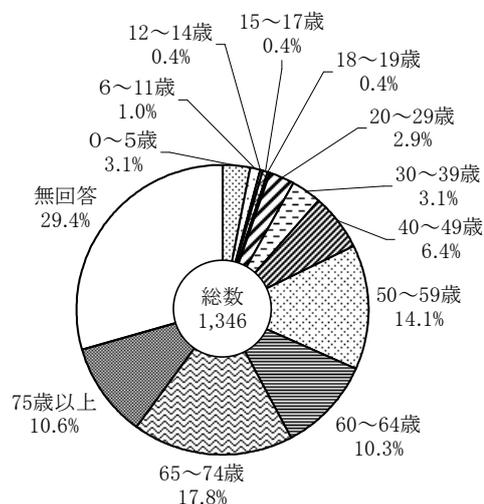
あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級(程度)に○をつけて、( )内に取得した年齢を記入してください。

等級は、「1級」が31.9%で最も多く、「4級」が27.7%、「3級」が16.7%、「2級」が13.1%で続きます。取得年齢は、「65～74歳」が17.8%で最も多く、「50～59歳」が14.1%、「75歳以上」が10.6%、「60～64歳」が10.3%、「40～49歳」が6.4%で続きます。

図表 I-1 身体障害者手帳の等級



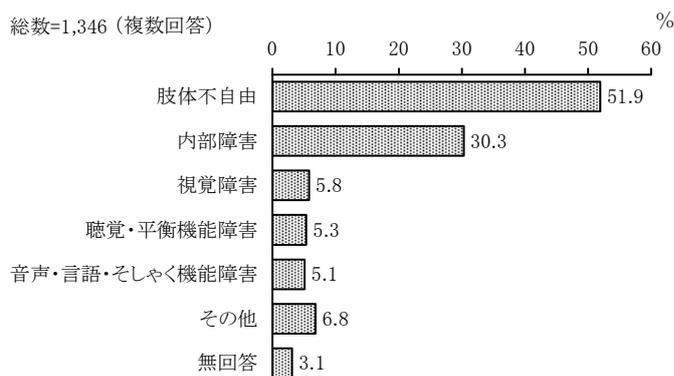
図表 I-2 身体障害者手帳の取得年齢



##### (2) 障害の種類(部位)

【身体障害者手帳をお持ちの方】にうかがいます。【障害の種類(部位)は、次のうちのどれですか。(あてはまるものすべてに○)】

図表 I-3 障害の種類(部位)



「肢体不自由」が51.9%で最も多く、「内部障害」が30.3%で続きます。「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」「音声・言語・そしゃく機能障害」はいずれも5%強となっています。

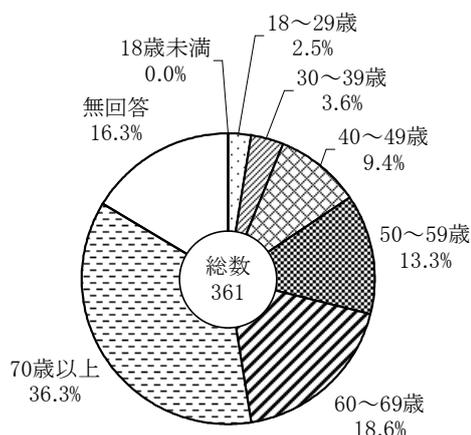
### (3) 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

【家族・親族による介助を受けている方に対する設問】 主な介助者は何歳くらいの方ですか。（ ）内に数字を記入してください。

図表 I-4 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

「70歳以上」が36.3%で最も多く、「60～69歳」が18.6%、「50～59歳」が13.3%、「40～49歳」が9.4%で続きます。

主な介助者の平均年齢は、63.2歳となっています。

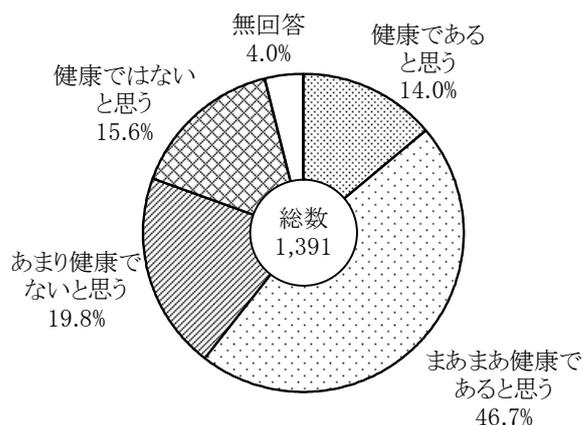


### (4) 最近の健康状態

あなたの最近（ここ3か月以内）の健康状態はいかがですか。（どれか1つに○）

図表 I-5 最近の健康状態

「健康であると思う」が14.0%、「まあまあ健康であると思う」が46.7%であり、全体の60.7%が健康だと感じています。一方、「あまり健康でないと思う」は19.8%、「健康ではないと思う」は15.6%であり、全体の35.4%が健康ではないと感じていることがわかります。

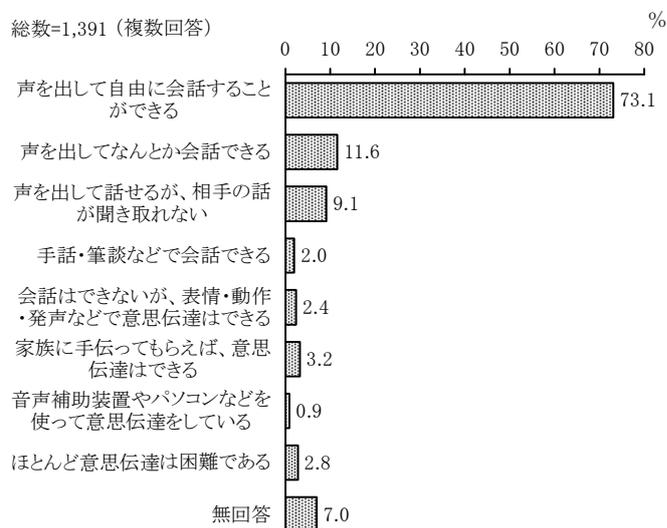


## (5) 会話や意思の伝達ができる程度

あなたは、日頃どのようにコミュニケーション（会話や意思の伝達）をとることができますか。（あてはまるものすべてに○）

「声を出して自由に会話することができる」が73.1%で最も多く、「声を出してなんとか会話できる」が11.6%、「声を出して話せるが、相手の話が聞き取れない」が9.1%で続きます。

図表 I-6 会話や意思の伝達ができる程度

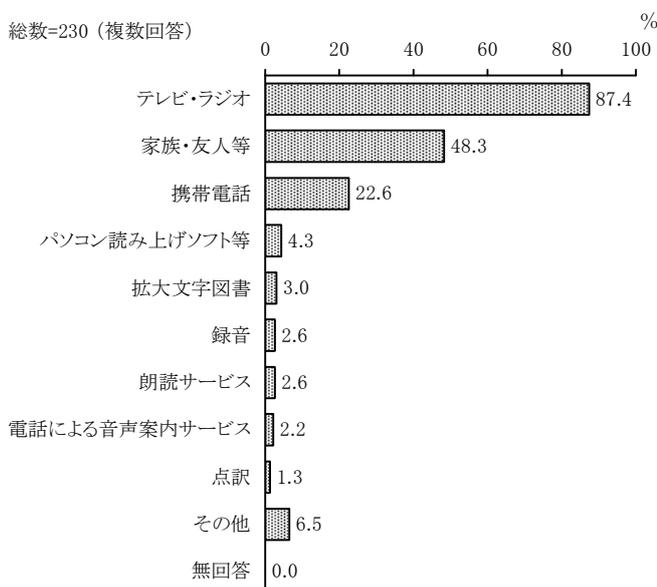


## (6) コミュニケーション方法

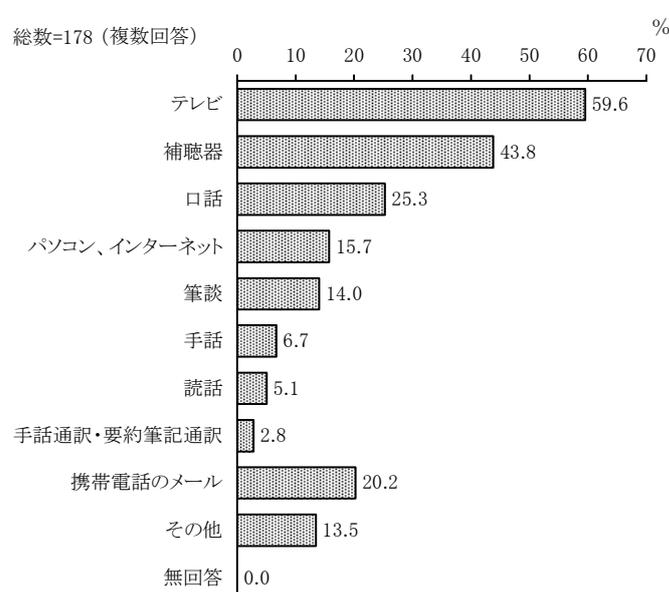
【視覚障害・聴覚障害の方にうかがいます。】あなたは、日頃どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。（あてはまるものすべてに○）

視覚障害者では、「テレビ・ラジオ」が87.4%で最も多く、「家族・友人等」が48.3%、「携帯電話」が22.6%で続きます。聴覚障害者では「テレビ」が59.6%で最も多く、「補聴器」が43.8%、「口話」が25.3%、「パソコン、インターネット」が15.7%、「筆談」が14.0%で続きます。

図表 I-7 コミュニケーション方法（視覚障害者）



図表 I-8 コミュニケーション方法（聴覚障害者）



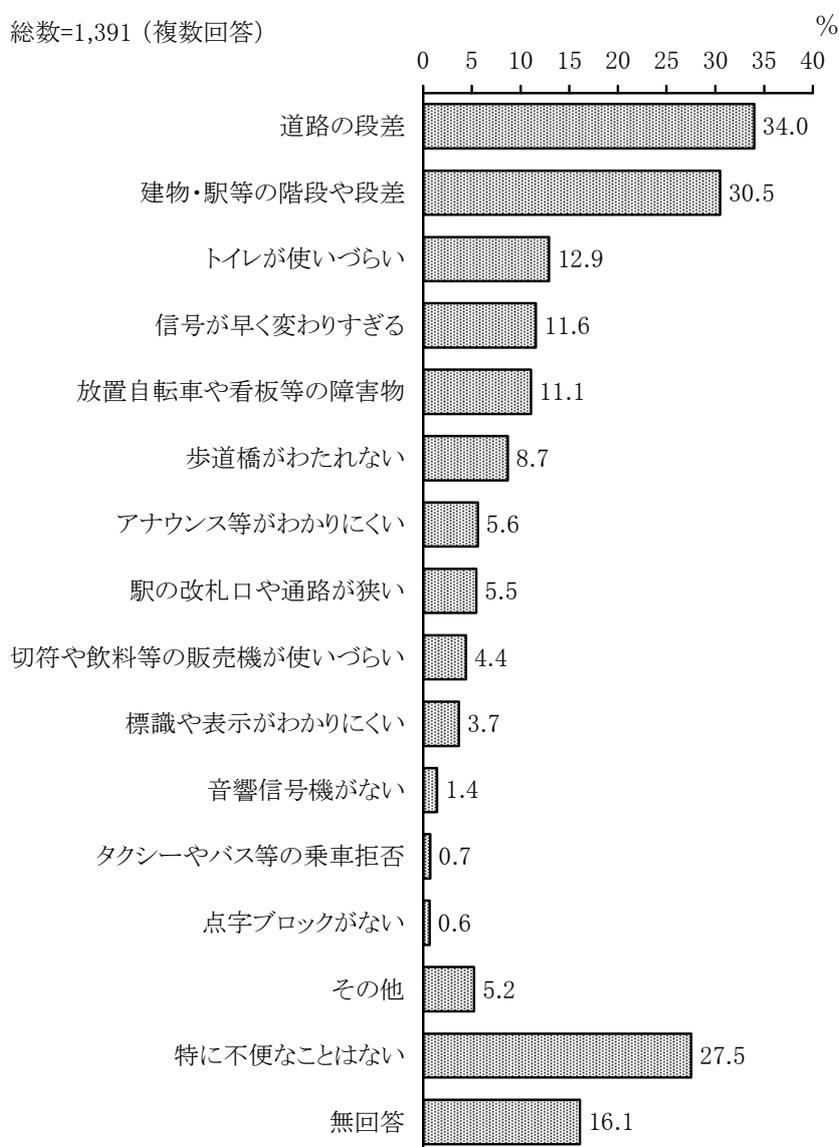
## (7) 外出の際に設備等で不便に思うこと

あなたが外出する際、道路や交通機関、建物のことで困ったり不便に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出の際に設備等で困ったり不便に思うこととしては、「道路の段差」が34.0%、「建物・駅等の階段や段差」が30.5%で多くなっています。このほか、「トイレが使いづらい」が12.9%、「信号が早く変わりすぎる」が11.6%、「放置自転車や看板等の障害物」が11.1%で続きます。

「特に不便なことはない」は27.5%となっています。

図表 I-9 外出の際に設備等で不便に思うこと



## II 知的障害者を対象とした調査結果

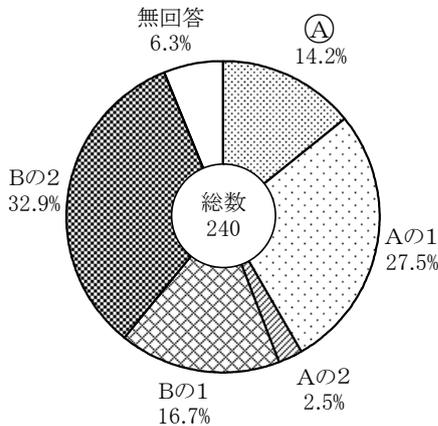
### (1) 療育手帳の判定と取得年齢

あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級（程度）に○をつけて、（ ）内に取得した年齢を記入してください。

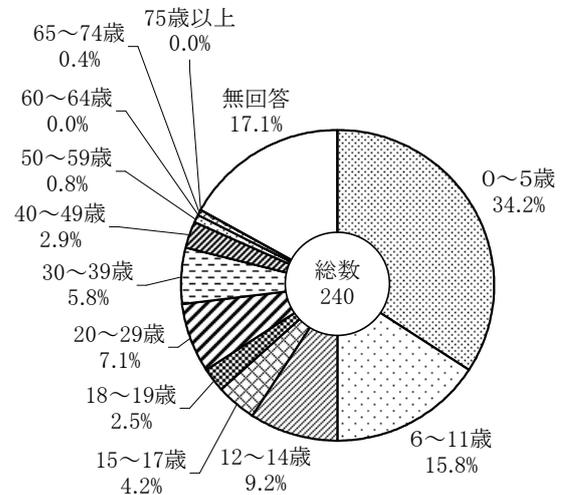
判定は、「Bの2」が32.9%で最も多く、「Aの1」が27.5%、「Bの1」が16.7%、「A」が14.2%で続きます。

取得年齢は、「0～5歳」が34.2%で最も多く、「6～11歳」が15.8%、「12～14歳」が9.2%、「20～29歳」が7.1%で続きます。

図表Ⅱ-1 療育手帳の判定



図表Ⅱ-2 療育手帳の取得年齢



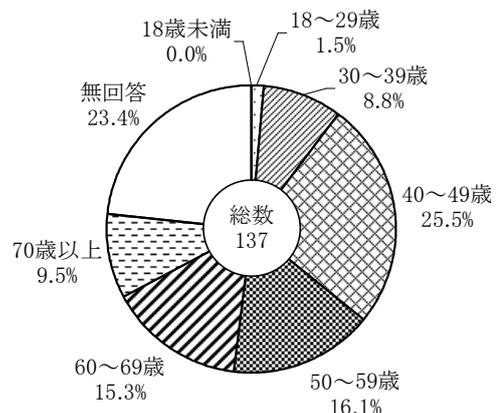
### (2) 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

【家族・親族による介助を受けている方に対する設問】主な介助者は何歳くらいの方ですか。（ ）内に数字を記入してください。

「40～49歳」が25.5%で最も多く、「50～59歳」が16.1%、「60～69歳」が15.3%、「70歳以上」が9.5%、「30～39歳」が8.8%で続きます。

主な介助者の平均年齢は、52.0歳となっています。

図表Ⅱ-3 介助してくれる人（主な介助者）の年齢



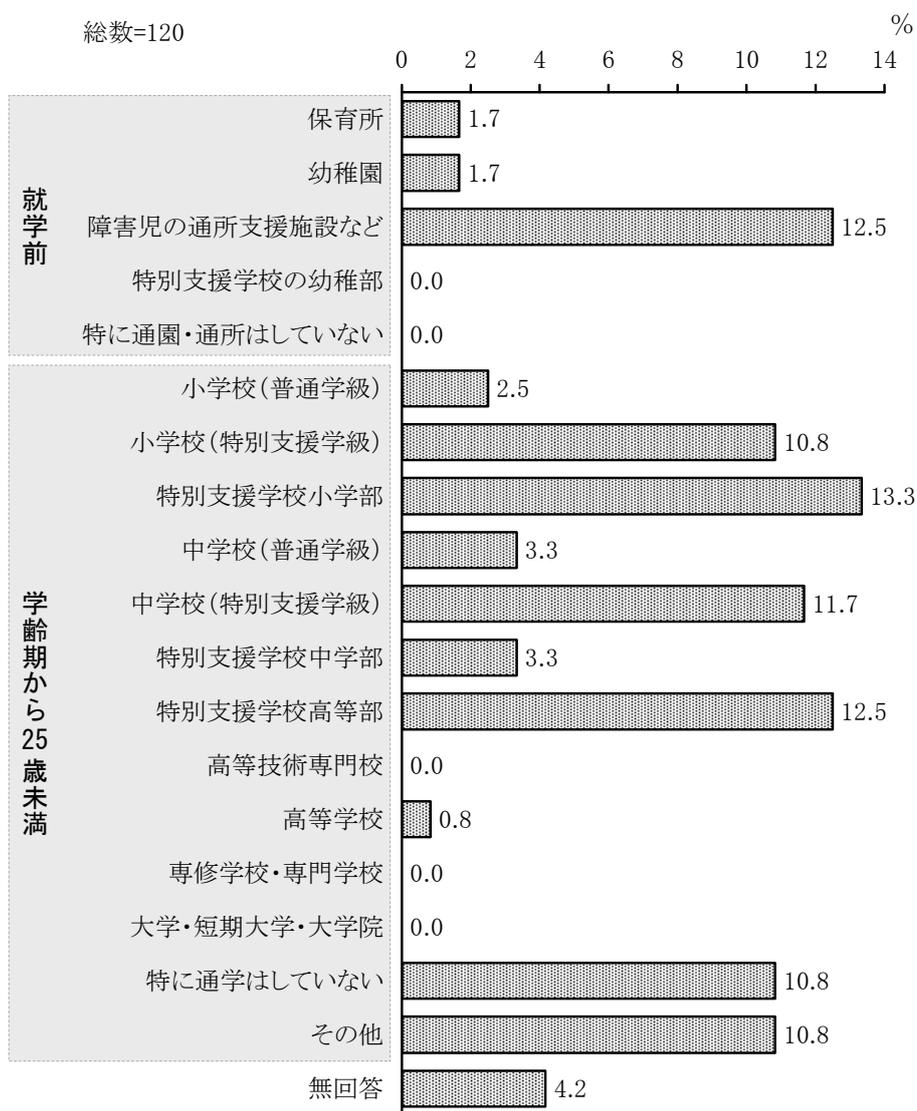
### (3) 通園・通学先

【25歳未満の方に対する設問】 現在、あなたが通園・通学しているところはどこですか。(どれか1つに○)

就学前については「障害児の通所支援施設など」が12.5%、学齢期から25歳未満については「特別支援学校小学部」が13.3%、「特別支援学校高等部」が12.5%、「中学校(特別支援学級)」が11.7%、「小学校(特別支援学級)」が10.8%で続きます。

「特に通学はしていない」は10.8%です。

図表Ⅱ-4 通園・通学先

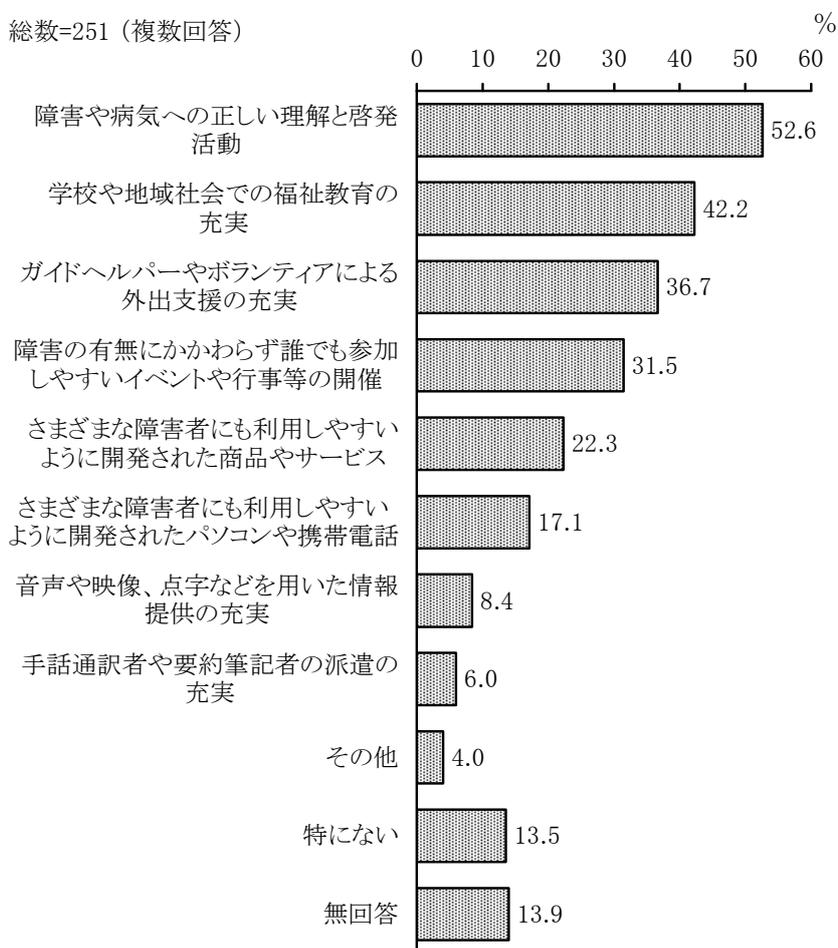


#### (4) バリアフリー化を進めるために重要なこと

交通機関やまちのバリアフリー化だけでなく、制度や意識の面も含めた「社会全体のバリアフリー化」を進めるために、あなたが重要だと思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「障害や病気への正しい理解と啓発活動」が 52.6%で最も多く、「学校や地域社会での福祉教育の充実」が 42.2%、「ガイドヘルパーやボランティアによる外出支援の充実」が 36.7%、「障害の有無にかかわらず誰でも参加しやすいイベントや行事等の開催」が 31.5%で続きます。

図表Ⅱ-5 バリアフリー化を進めるために重要なこと



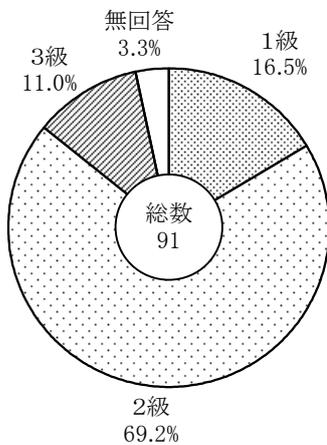
### III 精神障害者を対象とした調査結果

#### (1) 精神障害者保健福祉手帳の等級と取得年齢

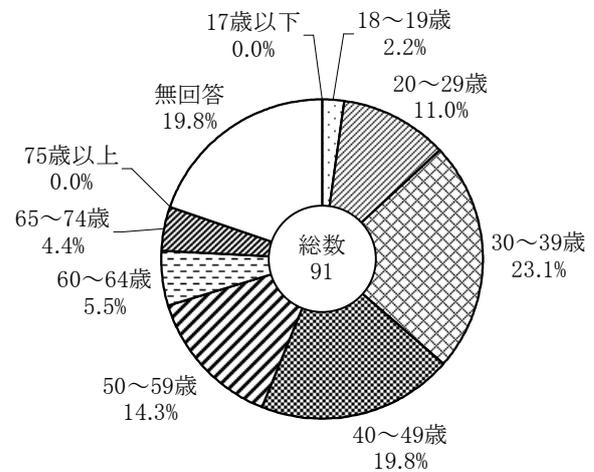
あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級（程度）に○をつけて、（ ）内に取得した年齢を記入してください。

等級は、「1級」が16.5%、「2級」が69.2%、「3級」が11.0%となっています。取得年齢は、「30～39歳」が23.1%で最も多く、「40～49歳」が19.8%、「50～59歳」が14.3%、「20～29歳」が11.0%で続きます。

図表Ⅲ-1 精神障害者保健福祉手帳の等級



図表Ⅲ-2 精神障害者保健福祉手帳の取得年齢

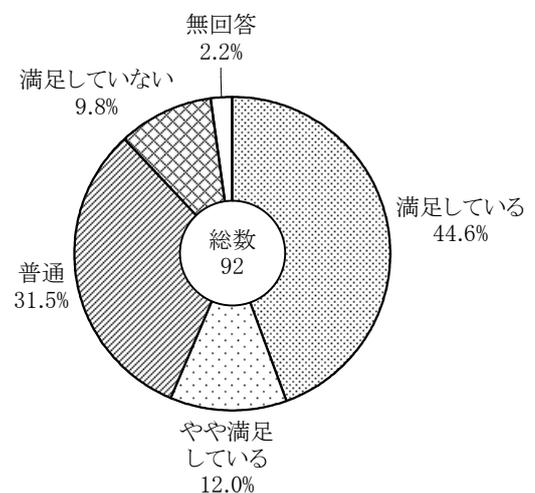


#### (2) 自立支援医療の満足度

【自立支援医療を利用している方に対する設問】あなたは、自立支援医療に満足していますか。（どれか1つに○）

図表Ⅲ-3 自立支援医療の満足度

「満足している」が44.6%で最も多く、「やや満足している」が12.0%であり、全体の56.6%が自立支援医療に満足しています。「普通」は31.5%、「満足していない」は9.8%となっています。



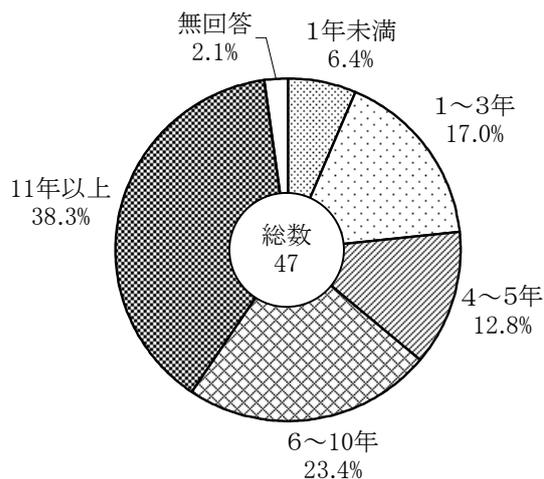
## IV 施設入所者を対象とした調査結果

### (1) 現在の施設での入所年数

あなたは、この施設・病院に入所・入院して何年になりますか。( ) 内に数字を記入してください。※1年未満の方は0を記入してください。

図表IV-1 現在の施設での入所年数

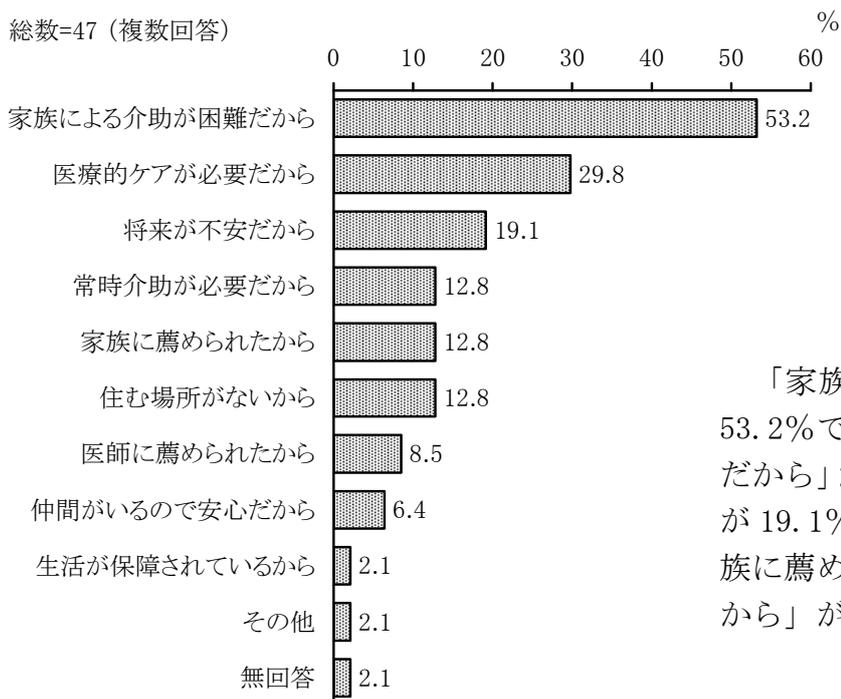
「11年以上」が38.3%で最も多く、「6～10年」が23.4%、「1～3年」が17.0%、「4～5年」が12.8%、「1年未満」が6.4%となっています。



### (2) 現在の施設への入所理由

あなたが、この施設・病院に入所・入院した理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

図表IV-2 現在の施設への入所理由

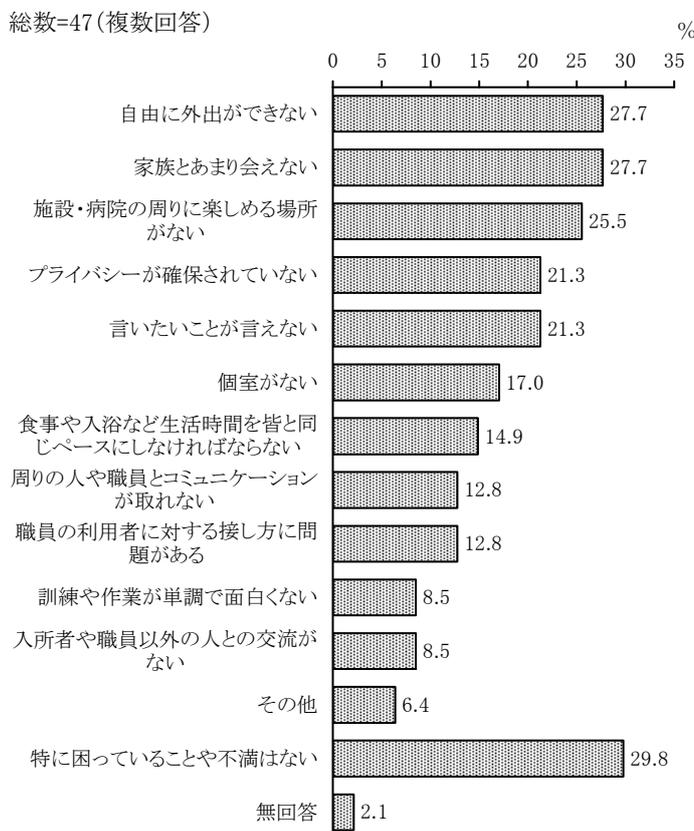


「家族による介助が困難だから」が53.2%で最も多く、「医療的ケアが必要だから」が29.8%、「将来が不安だから」が19.1%、「常時介助が必要だから」「家族に薦められたから」「住む場所がないから」がそれぞれ12.8%で続きます。

### (3) 施設での生活で困っていること

あなたが施設・病院の生活で困っていることや不満に思っていることは、何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

図表IV-3 施設での生活で困っていること



施設・病院の生活で困っていることや不満に思っていることとしては、「自由に外出ができない」「家族とあまり会えない」がそれぞれ 27.7%で最も多く、「施設・病院の周りに楽しめる場所がない」が 25.5%、「プライバシーが確保されていない」「言いたいことが言えない」がそれぞれ 21.3%で続きます。

「特に困っていることや不満はない」は 29.8%となっています。

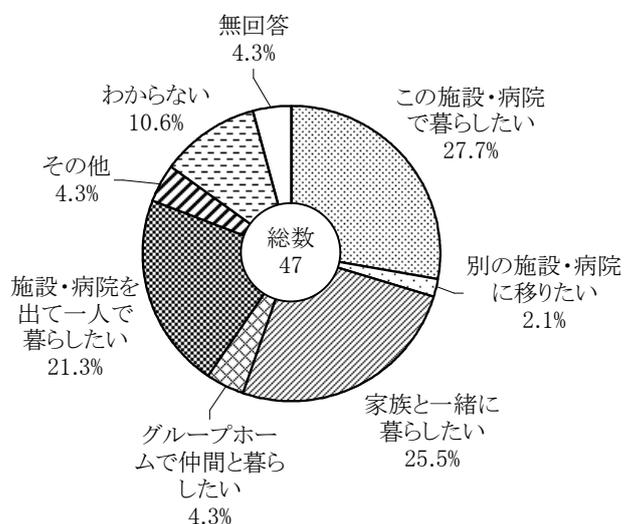
### (4) 将来希望する暮らし方

あなたは将来、どこで(どのような)暮らし方を望みますか。(どれか1つに○)

「この施設・病院で暮らしたい」が 27.7%で最も多く、「家族と一緒に暮らしたい」が 25.5%、「施設・病院を出て一人で暮らしたい」が 21.3%で続きます。

病院に入院している回答者では「施設・病院を出て一人で暮らしたい」(57.1%)が6割弱を占めています。

図表IV-4 将来希望する暮らし方



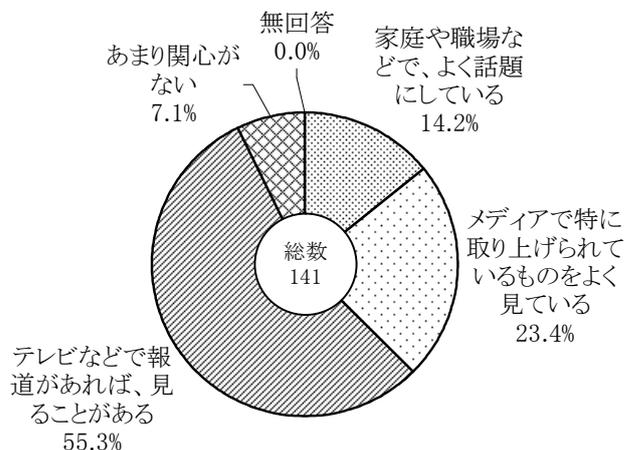
## V 一般市民を対象とした調査結果

### (1) 障害のある人への関心の有無

あなたは、身体や心の障害のある人たちに対して関心がありますか。(どれか1つに○)

図表 V-1 障害のある人への関心の有無

「テレビなどで報道があれば、見ることがある」が55.3%で最も多く、「メディアで特に取り上げられているものをよく見ている」が23.4%、「家庭や職場などで、よく話題にしている」が14.2%、「あまり関心がない」が7.1%となっています。



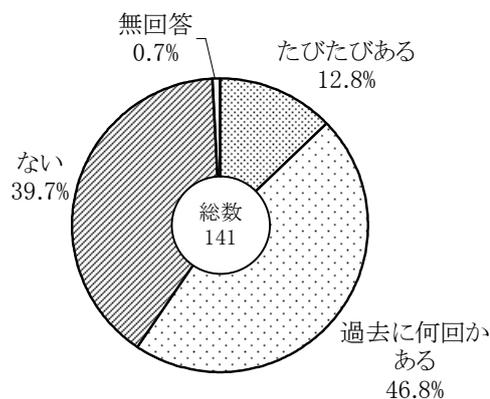
### (2) 障害のある人と一緒に活動した経験の有無

あなたは、障害のある人と一緒に活動した経験がありますか。(どれか1つに○)

「たびたびある」が12.8%、「過去に何回かある」が46.8%であり、全体の59.6%が障害のある人と一緒に活動した経験があると回答しています。

「ない」は39.7%となっています。

図表 V-2 障害のある人と一緒に活動した経験の有無

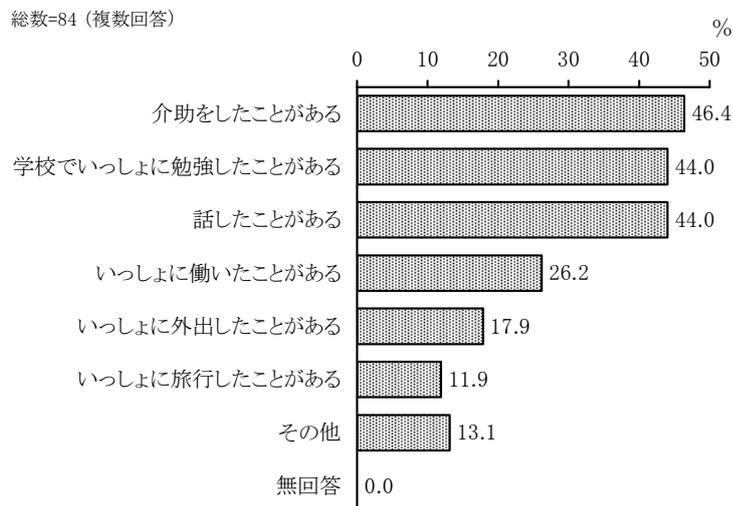


### (3) 障害のある人と一緒に活動した経験の内容

【障害のある人と一緒に活動した経験のある方に対する設問】あなたは、主にどのようなことを経験しましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表V-3 障害のある人と一緒に活動した経験の内容

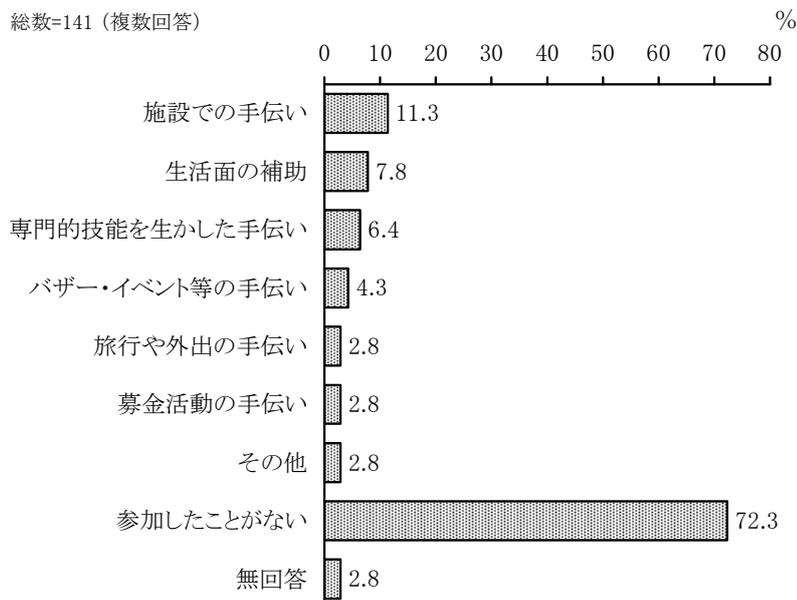
「介助をしたことがある」が46.4%で最も多く、「学校でいっしょに勉強したことがある」「話したことがある」がそれぞれ44.0%、「いっしょに働いたことがある」が26.2%で続きます。



### (4) 障害のある人のためのボランティア活動への参加経験の有無

障害のある人のためのボランティア活動として、あなたが参加したことのある活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表V-4 障害のある人のためのボランティア活動への参加経験の有無



参加したことのある障害のある人のためのボランティア活動としては、「施設での手伝い」が11.3%で最も多く、「生活面の補助」が7.8%、「専門的スキルを生かした手伝い」が6.4%で続きます。

「参加していない」は72.3%となっています。

**船橋市障害者計画基礎調査報告書【概要版】**

平成 25 年 10 月発行

船橋市健康福祉局福祉サービス部障害福祉課

〒273-8501 千葉県船橋市湊町 2-10-25

電話：047-436-2307 FAX：047-433-5566

